

令和6年度（2024年度）

自己評価 報告書

学校法人巨樹の会
下関看護リハビリテーション学校
看護学科

本報告書は、学校法人巨樹の会 下関看護リハビリテーション学校の看護学科教員の自己評価結果を記したものである。

令和7年7月1日

学校長 林 研二

学校評価実施責任者
副学校長

田中 亜紀子

1. 自己評価の概要と実施状況

1) 自己評価の目的・方針

- ①教職員が自己評価を行う中で、学生教育並びに学校運営に関する自己点検、確認、検討の機会とする。
- ②自己評価の妥当性を、学校関係者評価において確認し、学生教育や学校運営についての客観性・透明性を高める。
- ③自己評価ならびに学校関係者評価により、学校運営・教育活動における課題を明確にして、学校運営の改善を図る。
- ④自己評価は本校の学校評価実施規定に則り、「専修学校における学校評価ガイドライン」「学校関係者評価の項目」に応じて実施する。

2) 自己評価委員会委員（7名）

委員氏名	所属
林 研二	下関看護リハビリテーション学校 学校長
山崎 圭	下関看護リハビリテーション学校 理学療法学科副学校長兼事務長代行
佐野真由美	下関看護リハビリテーション学校 理学療法学科教務部長
吉廣 伸隆	下関看護リハビリテーション学校 理学療法学科教務部長
佐々木圭太	下関看護リハビリテーション学校 理学療法学科教務主任
田中亜紀子	下関看護リハビリテーション学校 看護学科副学校長代行(令和6年度時点)
小林 愛	下関看護リハビリテーション学校 看護学科教務部長代行(令和6年度時点)

(委員会は自己評価の実施、評価、検討のために随時開催する)

3) 自己評価方法

平成6年度の教育活動、学校運営の全般にわたり、項目Ⅰ～項目Ⅹの内容について、教職員個人による自己評価・自己点検の機会を設け、集約した結果を参照して、自己評価委員会にて評価を行う。

また、評価結果の妥当性を確認し、課題や改善が望まれる項目、その解決の方向性についての検討を行い、学校関係者評価の結果と併せて、健全な学校運営に役立てる。

2. 自己評価の内容

自己評価、学校関係者評価に共通して、各項目の評価は下記に示す達成度による4段階の評定基準にて実施する。

1) 評定基準

- S : 十分に達成している。 (達成度が高い)
A : 達成している。 (概ね達成しており、明らかな改善は要しない)
B : 達成がやや不十分である。(若干の改善を要する)
C : 達成が不十分である。 (不適合がある、明らかに改善を要する)

2) 自己評価の内容

- 項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像
項目Ⅱ 学校運営
項目Ⅲ 教育活動
項目Ⅳ 学修成果
項目Ⅴ 学生支援
項目Ⅵ 教育環境
項目Ⅶ 学生の募集活動、広報活動
項目Ⅷ 財務
項目Ⅸ 法令等の遵守
項目Ⅹ 社会貢献、地域貢献

項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像

総括

教育理念・目的・目標等については、学内掲示・学生便覧・パンフレット・HP等で広く公表することで周知を図っている。教育理念に基づいて学年毎の到達目標を作成し、学生に提示し、学生も1年間のクラス目標・スローガンを立て、それを基に個人の目標を立てて勉学に励んでいる。年度初めに講師会議を行い、また毎月の実習指導者会議において意見交換を行っている。現在実施している周知の方策を継続し、理解を促していく。

課題

特になし

改善の方策

今後も継続する。

小項目Ⅰ-1

教育理念・目的・目標、人材育成像は定められているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

総括に記載のとおりである。

小項目Ⅰ-2

教育理念・目的・目標、人材育成像、特色などが、学生・保護者、関係業界(高校、病院、実習施設など)に周知されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

総括に記載のとおり、便覧やHPなどで、周知されている。

小項目Ⅰ-3

教育目的・目標、人材育成像は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

教育課程編成委員会ならびに実習指導者会議等を通じて、業界ニーズを取り入れている。外部講師にも確認をとり、新カリキュラム作成に取り組み、学科内で話し合いをされ、検討されている。

項目Ⅱ 学校運営

総括

年度ごとに学校法人巨樹の会の方針が出され、それに基づき学校の教育方針、重点目標を設定している。年度初めに学科の管理目標を提示し、各学年運営と教員の個人目標を設定し、9月に中間評価、3月に年度末評価を行っている。

学校運営会議・管理会議が意思決定の場として十分に機能し、学科会議で報告検討することで、教職員の意思統一が図れている。その会議もタブレットを用い、ペーパーレスで資料配信や情報共有できている。

情報システムについては、学事サーバーにて情報管理を行って業務の効率化を図っている。職員間の情報交換に関しては、学内にファイルサーバーを設置し活用している。

セキュリティの向上を図るために、学生には SNS 使用時の研修を組み入れた。タブレットを使用するようになり6年目であり、リモート授業も実施できている。外部講師も外部から配信したり、台風や大雨、コロナの濃厚接触者で登校できない場合も自宅で授業を受けるようにしている。

理学療法学科と共に委員会も同様に実施している。

課題

情報セキュリティについては、教員の教育等も含めて今後も継続して強化を図っていく必要がある。

改善の方策

情報セキュリティや個人情報保護について研修会等を実施していく。

小項目Ⅱ-1

教育理念・目的・目標等に沿った運営方針が策定されているか。

■自己評価：S : 適正

■コメント

総括に記載のとおり、策定されている。

小項目Ⅱ-2

運営組織や意思決定機能は、規則などにおいて明確化されているか。

■自己評価：S ■学校関係者評価：適正

■コメント

運営方針・計画は学科会議にて全員に意思統一を図り、学科会議で提案されたことは、最終

的に管理会議、学校運営会議で決定されている。

小項目Ⅱ-3

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

■自己評価：S ■学校関係者評価：適正

■コメント

学事サーバーやファイルサーバーの設置、ICT教育の推進により、効率化を図っている。

関連学校の会議はリモートでの会議を用いるなど、効率化を図っている。タブレットを用いて会議や授業を実施している。

項目Ⅲ 教育活動

総括

学校法人の教育理念のもと、指定規則に従い、教育課程編成を考え、学年別の到達目標を挙げている。学生の理解や意欲の状況を見ながら学習の支援を行っている。教員は継続して各自が授業計画を立案し、学科会議で検討している。授業は各科目の終了時に学生の評価を受け、教員はアンケート評価を分析し、次回の授業に活かしている。アンケートに答え易い様に QR コードを作成した。実習評価はロイロノートを用い、記名式で評価している。データが即グラフ化され、タイムリーに分析、表示できている。

キャリア教育に関しては、1 年次より段階的にスキルアップできるように、キャリア論をカリキュラムに組み入れ、教科外でも計画的に取り組んでいる。また、専門職連携教育(以下 IPE と記す)を理学療法学科と共に実施し、知見を得たので、1 年生 2 年生、そして 3 年生と段階を踏んで学修できるように取り組んでいく。

課題

学力面でサポートがかなり必要である。

改善の方策

今後も、低学力者を把握し、小人数を対象とした補習や個別対応を行う。

全体には毎日数問の課題を出し、解答することで学習を継続させ、知識の定着を図る。

小項目Ⅲ-1

教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適正

■コメント

総括に記載のとおり、実施されている。

小項目 Ⅲ-2

キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適正

■コメント

キャリア教育については、1年次よりキャリア論をカリキュラムに組み入れ、教科外時間でも計画的に研修を取り入れている。

タブレットを用いて、電子テキストを使い、講義演習を行って6年目であり、かなり慣れてきている。

効果的に活用できるよう、継続して授業の工夫をする。理学療法学科と共にタブレットを用い IPE も実施している。

小項目 Ⅲ-3

授業評価の実施・評価体制はあるか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適正

■コメント

授業終了時に学生からの授業評価をQRコードを用いて実施している。その分析を行って、教員間で次年度のカリキュラム作成に活用している。

小項目 Ⅲ-4

資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適正

■コメント

現役で100%国家資格取得を目指しており、1年次より授業の工夫を行っている。また、成績低迷者には、各教員がチューターとして関わり、個別対応している。

小項目 Ⅲ-5

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など、資質向上のための取組みが行われているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適正

■コメント

研修会や学会への参加を義務付けており、教員の研鑽意識も高い。全国紙に1稿掲載され、当校の取り組みを発表することができた。

項目Ⅳ 学修成果

総括

就職に関しては、開校以来 100%を達成している。

国家試験結果に関しては、合格率は100%ではなく、教員全員で100%合格に向け、1年次より取り組んでいる。しかし入学生の状況は選定できる状況ではなく、学習習慣のついていない学生がほとんどである。学力不振者に早期から関わることや、保護者面談等を通じて学生の生活習慣から関わる等の対策を行っている。

スクールカウンセラーが定期的に来校し、活用している。

課題

入学生の学力が低下傾向にあるため、早期から対策を実施していく必要がある。

改善の方策

ICT教育等を有効に活用して、効率的な学習を行えるように工夫を重ねていく。

新カリキュラム構築のため、授業評価を行い、教員全員ですべてを見直した。

教育方法を工夫し、授業内容と実習をつなげ、看護できる学生を1年次より育成していくことを確認している。それが国家試験の学習に繋がることを信じて、教員全員で国家試験対策を考え工夫していく。

小項目 Ⅳ-1

就職率の向上が図られているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適正

■コメント

開校以来、就職率 100%を達成している。

小項目 Ⅳ-2

国家試験合格率の向上が図られているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適正

■コメント

全国平均を大きく上回ることができた。今後も過年度の反省を踏まえて、国家試験対策を

1年次から実施している。国家試験不合格者へのフォローも実施している。

小項目 IV-3

退学率の低減が図られているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

退学率の低減を図るため、早期から低学力者及び意欲低迷者の支援を開始している。

スクールカウンセラー及び保護者との連携を図って、必要時面談を実施している。

今年度、退学者は1年5名、2年1名、3年1名 計7名だった。

小項目 IV-4

学生の社会的な活動を把握しているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

学生のボランティア活動など把握に努めている。関連病院が主催する大規模災害訓練に

傷病者役として参加し、医療従事者の活動を通して、学生に刺激を与えている。

項目 V 学生支援

総括

各学年担当制、副担当制を取り、定期的に学生との面接を実施している。成績や出席状況に合わせ、保護者とも連絡を取り合い、年に1回保護者会を開催し、学校生活の状況や国家試験に向けての取り組みなど説明し、連携を図っている。就職活動セミナー、履歴書作成指導、面接指導を実施するとともに、就職活動状況を随時把握し、情報の共有を図り指導に役立てている。

実習や技術試験の前には、学校を18時まで使用でき、自主的にシミュレーターなど活用することもできる環境の提供を心掛けている。

課題

学習習慣を持たない学生が入学してくる実態もあり、今後も支援を強化していく必要がある。

改善の方策

信頼される学校づくりの基本として、国家試験合格率100%を目指し、一年次の早期から学習状況を把握し、面談を実施しながら学力の向上を図る。適宜学習成果のテストを実施し、振り返りを行い、学習方法を確立していく。

教科外活動を毎年見直し、特別講義や特別講演を取り入れる。

新カリキュラム構築に際し、教員全員で学生支援について確認があったので、実践していく。

小項目 V-1

進路・就職に関する支援体制は整備されているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

図書室に就職関連の資料管理を行っており、自由に閲覧できるようにしている。

履歴書作成や面接試験の練習など、継続していく。

小項目 V-2

学生相談に関する体制は整備されているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

教職員に相談しやすい環境づくりやスクールカウンセラーによるカウンセリング等、学生相談

に対する支援体制は整えている。

小項目 V-3

保護者と適切に連携しているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

各学年担当・副担当制をひき、学生の学習状況を常に把握するように努めている。遅刻や学業不振に対して早期に面談を実施し、改善が難しい場合には保護者と連絡し、必要時面談を行うようにしている。

小項目 V-4

高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

中学校・高等学校に対しての職業講話や、体験授業を積極的に受け入れている。

小項目 V-5

修学支援体制が整っているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

遠方の学生に対して、安価な学生寮の提供、学生に弁当・パンの購入費補助等を行っている。寮自治とも話し合いを設け、清掃や除草、備品購入など生活環境改善を図っている。

項目VI 教育環境

総括

施設・設備・備品・図書等については、設置基準ならびに関係法令に適合し、学習効果を向上させるためにプラスαで揃えている。

ICT教育についても今年度もタブレットで電子テキストやソフトを用い、ICTを進めている。e-ナーーストレーナーやMedi-EYEを活用し、学内での講義、演習だけでは、臨地に実習に行かない期間のシミュレーション教育に有効であるので活用している。

理学療法学科と共に在ることを活かし、シミュレーション教育を取り入れ、IPEも実践している。学年ごとに目標を立てて実施した。新カリキュラムでは授業科目として位置づけられているため、今までの実践を生かしていき、理学療法学科にも協力を得る。

卒業生に対しても図書室等の利用を可能とし、卒後のスキルアップに活用できるようにしている。防災訓練についても、防災避難訓練を年2回計画し、1・2年生は避難訓練を実施した。実践できない部分は防災教育(机上)を実施した。

課題

職業実践専門課程の認定を取得しており、今後も日々進歩する医療情勢に対応できるような人材育成を目指す。そのために学生が自主的に自由に学習できる環境(高度化シミュレーター等)を整えて、演習を組み入れていく。

改善の方策

設備・備品については、購入計画を立てて充実を図っていく。
理学療法学科と共に考え、シミュレーションが実施できるように演習を組み入れていく。

小項目 VI-1

施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

総括に記載のとおり、計画的な充実が図られている。

小項目 VI-2

学内外の実習施設等について十分な教育体制を整備しているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

今後も実習施設との連携をはかり、実習環境を整えていく。

小項目 VI-3

防災に対する体制は整備されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

今後も防災避難訓練等を計画的に実施していく。

項目VII 学生の募集活動、広報活動

総括

学校パンフレットやホームページ、オープンキャンパス・学校説明会での情報提供以外に、高校教員向け学校説明会を年1回開催、学校ガイダンス等にも積極的に参加している。

課題

少子化、高校再編等が進む中、学生募集はさらに難しくなることが予測される。

改善の方策

高校から信頼をして学生を送っていただける学校、地域から認められる学校を目指して学校運営を行っていくとともに、学校の情報を正確に伝えていく努力を続けていく。

小項目 VII-1

高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みを行っているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

高校教員向け学校説明会において、現在の医療情勢等や本校の教育について説明を行っている。

小項目 VII-2

学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

資格取得状況ならびに就職状況についても、正確に伝えている。

項目Ⅷ 財務

総括

事業計画に基づき予算が計上され、適切な運営がなされている。財務は法人本部と各学校財務で確認を行う二重チェックで財務管理が行われている。また、決算及び予算については、理事会で検討・承認が行われ、会計監査の実施により、適正に行われている。また、事業計画については、学内の両学科で検討・調整を行い、予算計画を立てて運営している。

課題

全教職員へも学校経営に関する意識づけを行うために財務に関する情報を伝えていく。

改善の方策

年度中間・年度末に学校長・事務長・両学科副学校長・経理担当者で確認を行うとともに、全職員へも周知を行っていく。

小項目 Ⅷ-1

中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

学校法人としての財政は安定している。

小項目 Ⅷ-2

予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

有効かつ適切に実施されている。

小項目 Ⅷ-3

財務について会計監査が適正に行われているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

適切な会計監査が行われている。

項目Ⅸ 法令等の遵守

総括

法令順守は、法人全体で取り組まれている。本校においても①学校基礎調査②専修学校各種学校評価③学校指定規則に基づく報告を毎年行い、法令を遵守している。

個人情報保護に関しては、法人全体で規定を設けており、教職員及び外部講師、学生が遵守すべき事項が定められている。臨床実習における学生の個人情報保護については、SNS の取り扱いを含めて指導を徹底している。

課題

本校では、これまで問題は起こっていないが、昨今、世間では SNS 等を通じての情報漏洩や不適切動画の投稿などが問題となっているため、今後も職員ならびに学生に対して教育を継続していく必要がある。

改善の方策

教職員・学生に対して、SNS ならびに個人情報保護に関する教育を毎年実施していく。

小項目 Ⅸ-1

法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

適切に運営されている

小項目 Ⅸ-2

個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

適切な対策が取られている。

項目 X 社会貢献・地域貢献

総括

関連病院等に施設を貸し出し、また高齢者体験キット等教材の貸し出しも実施している。地域に対して本校はボランティア活動を推奨している。今年度は清掃活動のみ実施した。

課題

試験や実習等の重要な学事に重ならないボランティアを増やす。

改善の方策

地域と連携を取りながら、地域のボランティア情報を入手するとともに、学校独自の地域清掃活動などを継続していく。

小項目 X-1

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

今後も施設及び教材の貸し出し等協力をしていく。

小項目 X-2

学生のボランティア活動を奨励しているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

学校として、ボランティア情報収集や学生への周知・集約等、ボランティア活動を継続して支援していく。